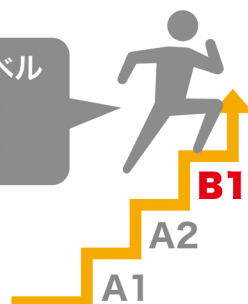


Speaking

対象レベル

B1



※B1、B2の回答例は「Speaking 発表」の11ページをご覧ください。

B1の特徴

ある程度知見のある内容のトピックであれば、社会的な問題などの簡単なディスカッションをしたり、意見を言ったりすることができます。

B2の特徴

いろいろなトピックに対して、ある程度複雑な内容の長めのやりとりを行うことができます。

準備のための具体例

Opinion Questionを用意する！

トピックは授業で扱った教科書の内容を使うと、生徒から複雑な内容の発話を引き出すことができます。

Opinion Question 例1

Do you think robots will make our life better?

Opinion Question 例2

Do you think the development of AI will make us happier?

Opinion Question 例3

Do you think high school students should have their own smartphones?

B1 → B2を目指すための指導案①

目標

ある程度複雑な内容の長めのやりとりができる



目安時間

20分

準備物 Opinion Question

トピックの難度を考慮して選ぶ。

B2のやりとりの力を付けるには、発表のB1 (P.12) で取り扱ったステップ1～3を行います。ステップ1のトピックは授業で扱った教科書の読み物の内容を使うと、生徒から複雑な内容の発話を引き出すことができます。トピックが自分のことであったり、あまり複雑なものではなかったりすると、B1レベルの発話になってしまうのでトピックの難度を考慮して選んでください。

ステップ

1

(ペア)

- 発表のB1 (P.12) で取り扱ったステップ1～3の後、聞き手だった生徒に発表者へ質問や、自分の意見(賛成や反対)を詳しい理由を付けて言わせる。



発表者への意見や質問が出てこない場合は、どんな質問ができるか例を見せる。



ステップ

2

(ペア)

- 発表者に聞き手の意見に、応対させる。ここでは、各聞き手ごとに少なくとも3～4回のやりとりを行わせる。



聞き手と発表者のやりとりが1度のみになると、B1レベルの活動になるので注意する。



POINT

聞き手が発表者に自分の意見をうまく伝えられていない、または発表者が聞き手の意見にうまく応対できていない時は、賛成や反対意見をどのように伝えるのかの指導が必要になります。様々な表現(例:I think you have valid points, but～)を教えてください。

教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。ステップ2の後、多くの生徒が間違えて表現していたものを数個挙げ、黒板に正しい表現などを書いて、全体で確認する程度にしてください。